

「新しいラグビー」とは？

文芸春秋五月特別号の「グローバル化第三の波」というタイトルは、30年程前に日本が世界のラグビーの大波を前にして大きな驚きとともに対策を練った過去を振り返らせるものでした。冒頭の文を引用させていただきます。

2009年2月20日、ドル公式保有高が2兆ドルに達した日本政府は、慢性的な双子の赤字に苦しむアメリカに見切りをつけ、ドルを下支えしてきた長年の経済政策を大転換させた。大量に保有する米国債を売却するとともに、今までドルばかりだった保有外貨を、ユーロなど複数の通貨に分散することをきめたのだ。この動きに中国、イギリスも追随し、ドルは一気に大暴落、混乱の果てにアメリカは、「世界の盟主」の座から転落していく。

「東西逆転—アジア・30億人の資本主義者たち」(NHK出版)クライド・プレストウイツ氏著の冒頭の引用文ですが、その未来予測は衝撃的なものです。

1960年代から1980年代へかけて、ラグビー談義の中で「グローバル化」「第3の波」という言葉が話題になり、トフラー著「第三の波」を遅ればせながら読んだことが記憶に残っています。世界のラグビー進化は衝撃的で、未来を設計できないほどのものでした。拙著「新しいラグビーへの道」のタイトルは談義の中から生まれたもので、今改めて低迷する日本のラグビーの現状を考察するキーワードとして取り上げる価値があると思います。

1960年から1970年にかけて、世界の現代ラグビーの大変革が大波となって日本にも押し寄せていました。日本協会も技術委員会と代表チームが中心となって積極的に外国の進化の波を消化吸収し、目覚ましい発展をとげました。そして普及発展に努めた結果、1980年代にラグビーブームとなりました。

改革の中身として流動的で躍動的な running handling game としての現代ラグビーの new image の浸透と、グローバル化、プロ化の加速が急速にすすめられました。その発端は南ア、NZ、オーストラリアチームの台頭であり、イングランドの復活への意気込みが小波、大波からうねりとなって世界へ普及していきました。日本もいち早く波を察知し、その経過を研究し、世界の波を知る方策として、各種の書物の翻訳や、ドン・ラザフォードなどの外人コーチを招き学習しました。当時としては、一応大波に乗って改革を進められましたが、その後2000年に至る動きについての新しい考えや動きを全体に浸透させる十分な努力がなされなかった結果、継続的な更なる発展が途切れて、メジャーから見放され、国内の人気も低下し、ラグビー人口も減少の一途です。

国内にも大きな内の波がありました。社会人ラグビーの土台である企業業績の減速傾向にあり、経営が表面的には盛大で華やかなものでしたが、重厚長大の時代が去り冬の時代にさしかかり、右肩上がりのバブルの時代が去っていたのに、繁栄に浮かれ将来への手をうたずに過ごし、ビッグバンも目の前にきていました。ラグビー界をリードしていた財界トップクラスの方の助言を信じて、組織再生に生かすことができず、ずるずるときてしまいました。ロンドンの美術館に東芝コーナーがあり、トゥイッケナムの正面広告を日本企業名が占めるという時代で、エコノミックアニマルと言われた時代でした。その結果現代ラグビーへの後進性が身につきプロ化に遅れをとり、クラブ発達や年少者への普及指導不足、大衆へのアピール不足の結果、ラグビー人気低迷・人口減少し、将来の明るさが未だ見えません。

大波のウネりは強力なものです。波に飲み込まれてはいけません。スマトラ沖の地震はスマトラ・タイ沿岸に被害だけでなく、インド洋を越えてスリランカにも被害を及ぼしました。波は、避けるか乗らねばなりません。小さな波は板で乗り、津波は避難以外にありません。それには地震を知ることが大切です。避けるにせよ、乗るにせよ、波が来てから対処しては遅いのです。ラグビーは生きていられるように進化を繰り返します。現象から波を察知して、先を読み対策をたてねばなりません。その努力を怠った結果が現代の低迷であると言わざるをえません。

まず近年の他の多くのスポーツ発展状況を研究しなければなりません。とくにサッカーの隆盛はめざましいし、ファミリースポーツとして 家族化の対策も必要です。企業の情勢から、社会人ラグビーの進むべき道をさぐり、地域に根ざしたクラブチームの発展も大切で、ビッグ

パン、バブル崩壊と社会の変動の波をうけるラグビーのバブル対策なしにきた結果が今日の有様で、ラグビーだけでなく社会の動きにおくれてはなりません。それにはイングランドのラボラトリーのように研究専門期間をもうける必要があります。遅れを取り戻すため、波がきて、波をかぶってしまうと動きが遅くなります。波の震源を感知するために広く目をひらきましょう。今日、ラグビーが変わる動きがあります。ルールの検討が始められています。検討されルールブックの文字がかわってからは遅いのです。波の中身は興味深く研究の価値があります。波に乗る意欲と努力が今日求められています。

付記

引用文の著者クライド・プレストウィッツ氏は、レーガン政権時代に商務長官特別補佐官として対日貿易交渉を担当した。「日米逆転 - 成功と衰退の奇跡」はベストセラー。

2006.05.05
西川 義行